

「若者のモバイル情報通信環境に関する調査と考察（第1報）」

桑原雅臣・溝田今日子・成清ヨシエ・平田幸治・橋本正和
田中知恵・西岡征子・武富和美・乗富香奈恵・松田佐智子・鈴木由衣子

食物栄養学科（情報処理研究室）

（平成 26 年 12 月 22 日受理）

Investigation and Discussion for Mobile Information Terminal and Internet Dependence Tendency among College Students.

Masaomi KUWAHARA, Kyoko MIZOTA, Yoshie NARIKIYO, Koji HIRATA, Masakazu HASHIMOTO,
Tomoe TANAKA, Seiko NISHIOKA, Kazumi TAKEDOMI, Kanae NORIDOMI, Sachiko MATSUDA, Yuiko SUZUKI

(Department of Food and Nutrition (Department of Computer Education))

(Accepted December 22, 2014)

「若者のモバイル情報通信環境に関する調査と考察（第1報）」

桑原雅臣・溝田今日子・成清ヨシエ・平田幸治・橋本正和
田中知恵・西岡征子・武富和美・乗富香奈恵・松田佐智子・鈴木由衣子

食物栄養学科（情報処理研究室）

（平成26年12月22日受理）

Investigation and Discussion for Mobile Information Terminal and Internet Dependence Tendency among College Students.

Masaomi KUWAHARA, Kyoko MIZOTA, Yoshie NARIKIYO, Koji HIRATA, Masakazu HASHIMOTO,
Tomoe TANAKA, Seiko NISHIOKA, Kazumi TAKEDOMI, Kanae NORIDOMI, Sachiko MATSUDA, Yuiko SUZUKI

(Department of Food and Nutrition (Department of Computer Education))

(Accepted December 22, 2014)

Abstract

We have surveyed and discussed the mobile information terminal usage environment among college students. Most of the young people have a Smartphone. They are trying to widen the circle of communication by using of SNS (Social Networking Service). However, the so-called Internet addiction disorder and various network trouble has caused the social problems recently. Indeed, from the results of this study, it suggests the figure of young people that are touching the Smartphone all day in the most of the non-sleep time. But, they are flexible and cool to distinguish the difference of real world clearly from virtual world properly on the Internet.

Key words : ICT, Mobile Information Terminal, Internet Addiction, SNS

1. はじめに

昨今のモバイル情報端末の浸透には目を見張る状況がある。当初のモバイル機器とは、いわゆる携帯が可能なパソコン、すなわちラップトップパソコン（ノートPC）のことを指しており、当時のいわゆる携帯電話はあくまで持ち歩く事が可能な電話機であった。しかし、初期のノートPCは筐体も大きく重量もあり決して持ち運びに適していたとは言えず、インターネットへの接続もできない環境であり、本来の携帯パソコンであった。また、携帯電話も持ち運び可能な便利な屋外電話機であり、所詮音声の送受信機にすぎない物であった。ただ、これらのモバイル機器類は各々特異的な機能を有していた。ノートPCはコンピュータとしての処理能力を有し、携帯電話は電波による送受信（無線）能力を有し、これにインターネットという情報ネットワーク機能とウェブ（ハイパーテキスト）ソリューション技術を合体した本来のモバイル情報機器端末が低価格で誰でもが手元で簡単に使用する事ができるようになった。「スマートフォン（多機能携帯端末機）及びタブレット」の出現である。このいわゆるスマホを利用する事によって人々はシームレス（どこからでも、いつでも、切れ目無く）で誰とでも繋がる（コミュニケーション）事ができるようになった。これは、従来のIT（Internet Technology）という用語が、ICT（Internet & Communication Technology）と呼称変更されてきた所以である。しかし、この魔法のツール（道具）は、使い方と使う人によっては魔物となることもある。今般特に若者の間で社会問題化している、いわゆる「スマホ中毒」である。眠っている時間以外の全ての生活時間に亘って常に手に持って操作と情報に接触していないとイライラが邁進する一種のやはり“病気”と言える状況の発生である。我々は、今回情報に対する処理機器として、また同交換機器としての視点から本学学生のこれら機器類の利活用状況をリサーチし情報を収集調査及び統計処理することを第1期の調査研究課題とし、その状況に対する考察と対策などを第2期の研究課題とすることにした。

2. 調査の方法

本学短期大学の食物栄養学科（1・2年生：62人）と生活福祉学科（1年生：29人）と幼児保育学科（1年生：85人）及び西九州大学子ども学部子ども学科（1年生：90人）と同学部心理カウンセリング学科（1年生：39人）の総計305名に対し直接記入方式の紙媒体アンケートを配布し、その場で即時回収を行いデータを収集した。結果、回収率は100%であった。

3. 調査アンケートの内容

質問総数は39問、無記名方式で所属と性別のみを基本情報とし、最初の8問が各自の基本的情報処理環境への質問、残り31問をネットワーク（インターネット及びソーシャルネットワーキングシステム（又はサービス）（以後、SNSと記す。）に係る利用状況調査に割り当てた。（アンケート質問用紙は、付録を参照））選択肢の形式は、質問内容に沿って単数回答と複数回答の両方を配置した。

4. 調査データの処理

紙媒体での記入結果をMicrosoft社の統合型表計算ソフトウェア：Excel 2007に入力し、質問毎の単純集計と質問間におけるクロス集計を行った。また、グラフの作成も同アプリケーションツールを使用した。

5. 結果

5.1 基本情報について

① 回答者総数305名に対する回答者比率はほぼ各学科の学生数（Q1）に比例しており、子ども（30%）と幼保（28%）で半数を占め、食栄（20%）と心理（13%）と生福（10%）である。（図-1）男女比率（Q2）は、ほぼ男子：女子=3：7であった。（図-2）

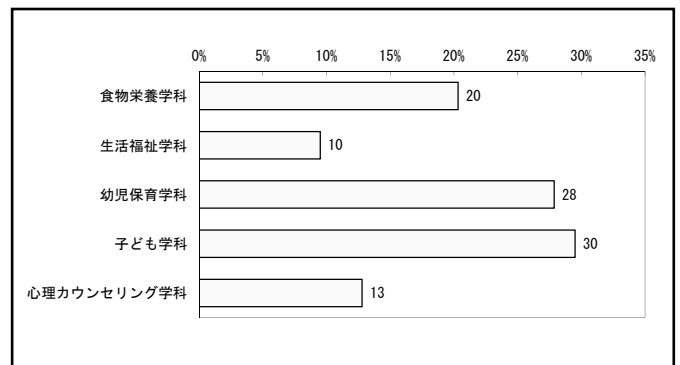


図-1 回収アンケートの学科構成

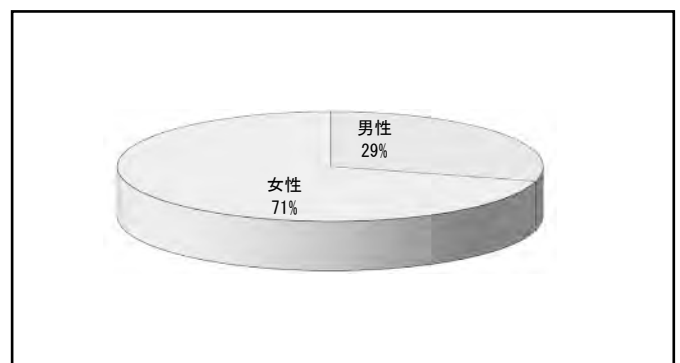


図-2 回答者の性別

② 学生各自が個人で利用している各種情報処理機器類（Q3）がどのような物であるか、さらにその所有形態を調べた結果、デスクトップパソコンが、家族との共有が多く（16%）、個人所有は非常に少ない（6%）状況であったのに比して、ノートパソコンは共有利用（17%）が少なく、個人所有（28%）が逆に多いという結果である。しかし、今回の調査では学生達が保有する情報処理機器では、スマートフォン（多目的携帯端末機）の所有が圧倒的に多く（92%）、これは現代若者層の状況をそのまま反映した結果とも言える。更にこれに続き、ゲーム機

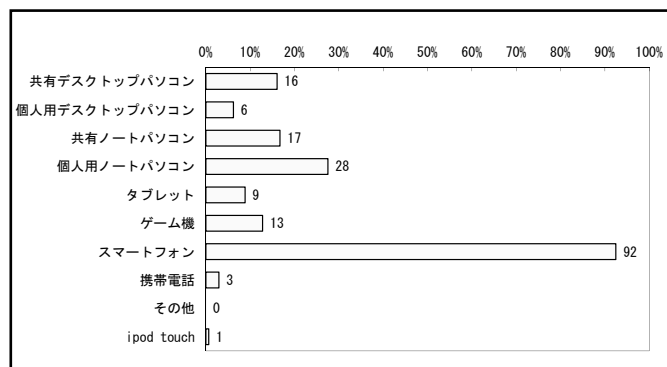


図-3 回答者の有する情報機器類の環境

所有（13%）とタブレット端末利用（9%）及び携帯電話（3%）とiPod（1%）となっている。（図-3）

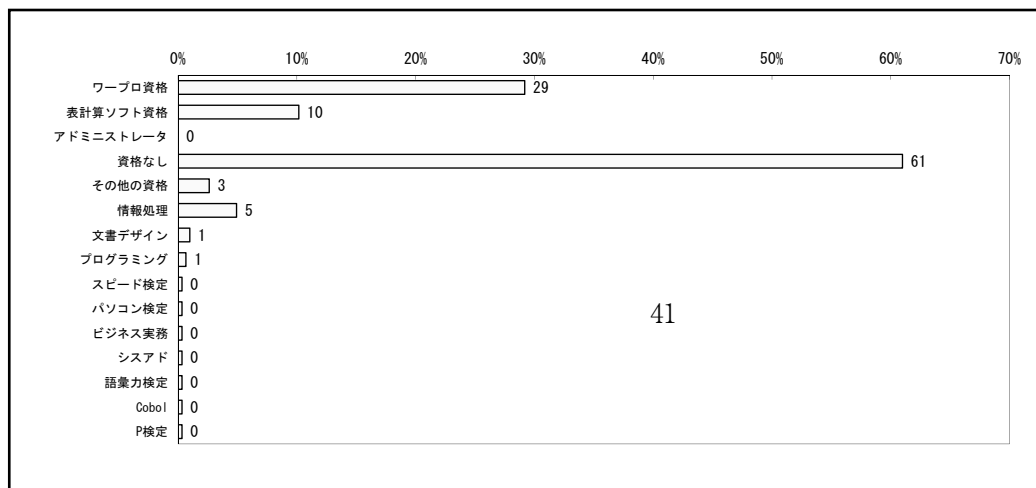


図-4 現在持っている情報処理関連の資格

③ 所有している情報処理関連の資格等（Q4）については、無資格者がほとんど（61%）で、高校在学中又は大学・短大に入学後に取得したと思われるワープロ資格が一番多く（29%）、表計算ソフト系資格が次に並んで

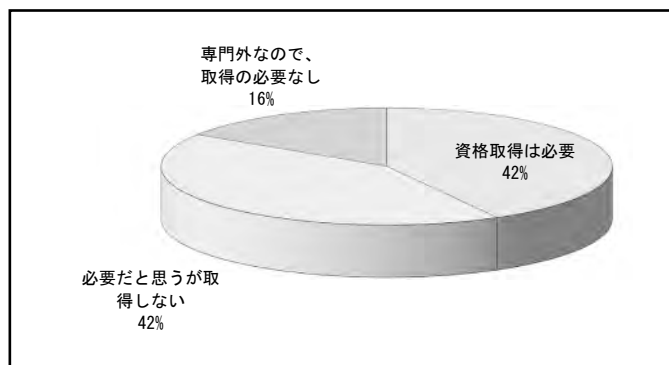


図-5 情報関連の資格は必要と思うか

いる（10%）。（図-4）また、当該情報関連資格取得の必要性（Q5）については、必要だと考えている者（42%）と必要との認識は有しているが現時点では諸々の理由により取得しない（42%）とした者が半々となった。（図-5）取得しない理由については今回のアンケートからは不明である。

④ 普段主に使用している情報処理機器類（Q6）についての結果は、前問の同機器類使用環境の回答傾向と全く同一となっており、圧倒的に「スマートフォン」に集中している。（図-6）

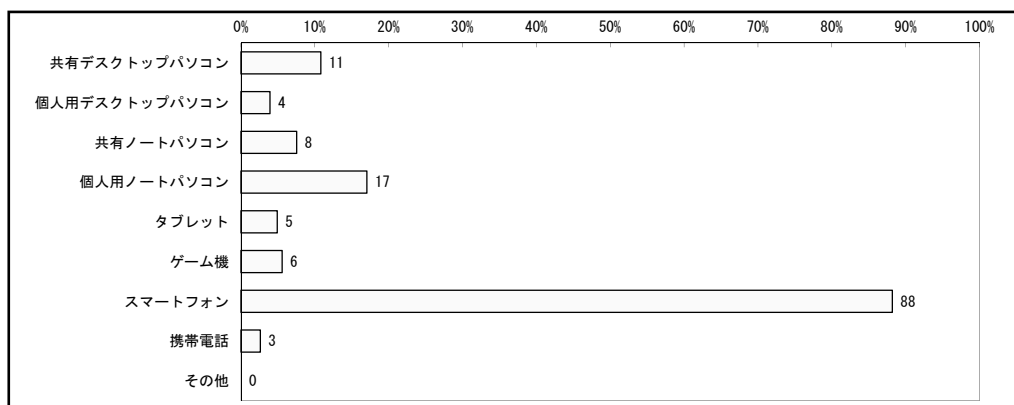


図-6 現在、主に使用している情報処理関連の機器類

⑤ 普段主に使用しているとした情報処理機器（上記結果から当然「スマートフォン」と想定できる。）について自分が十分活用できていると考えているか否か（Q7）の問いに対しては、自覚としては使いこなしていると思っているユーザがほぼ半数（55%）で、更にもし分からないことがあれば周りの理解している人に色々訊ねながら活用できていると考えている者（34%）が相当数おり、結果これを含めると若者ユーザの大多数（約90%）が使いこなすには自信を持っていることが分かる。（図-7）

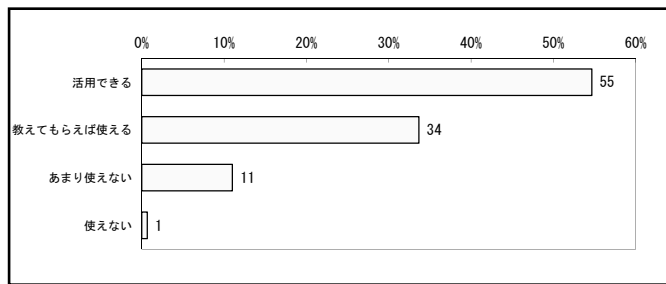


図-7 主に使用している機器を自分は使いこなしていると思うか

⑥ 情報処理機器へのデータ入力手段（Q8）については、パソコンを想定すれば従来からの物理キーボードによる文字入力が主体（30%）となり、スマートフォンへの同文字入力はソフトキーボード（14%）の利用が主流となり、本来のスマホ操作に対してはタップやフリックやスワイプ及びピンチなどのいわゆる各種画面タッチが利用（48%）されていることが分る。また、音声入力の利用者は今回の調査からは全くいなかった。（図-8）

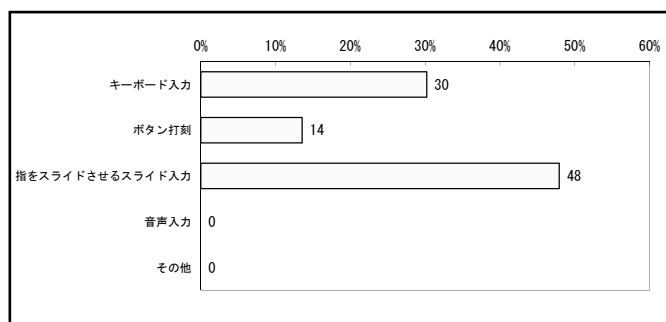


図-8 よく使用するデータ入力の方法

5.2 インターネットの利用について

① インターネットを利用する際に使用する情報処理機器（Q9）としては圧倒的にスマートフォンが多く（78%）、モバイルの主流となっている。次に多く利用されている機器としてはノートパソコンがあり（21%）、デスクトップ利用（14%）と並んでいる。ノートPCが準モバイルと省スペース型デスクトップ

PCとの中間的機器として位置付けされていることが分かる。また、タブレットによる利用はやはり少なく（5%）、更に携帯電話によるインターネット利用はほとんどなく（1%）、モバイル電話機専用との位置付けである。（図-9）

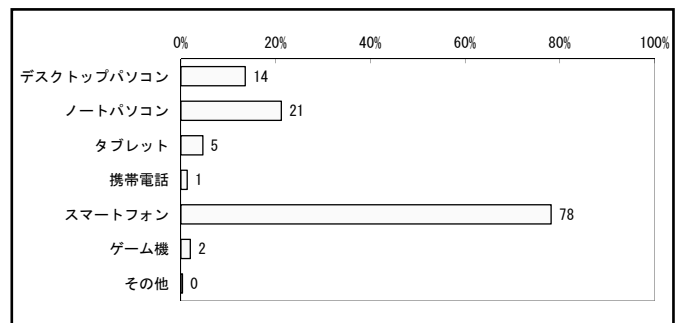


図-9 インターネットを利用する際に、主に使用する情報処理機器類

② インターネットを利用する際に発生する料金の負担所在（Q10）についての問いからは、圧倒的に保護者が支払っている（82%）ことが分かった。自己負担をしている者は16%となっており学生としての身分（固定収入無しで、おそらくアルバイト代からの支出）では止むを得ない状況とは考える。（図-10）

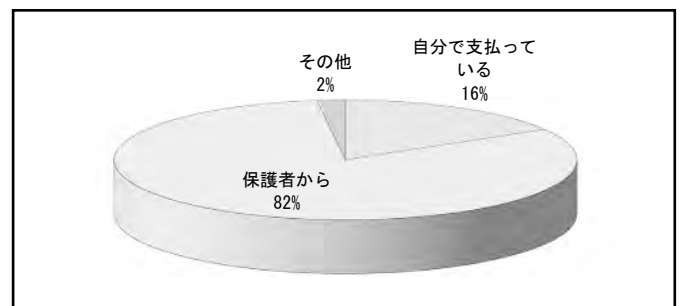


図-10 各種情報通信機器類の利用経費は誰が負担（支払）しているか

②-1 次にこのインターネット利用のための費用を保護者が負担しているにしても、利用料金を利用者本人の学生が把握しているか（Q10-1）についてのサブクエスチョンから、“知らない”と回答した者が65%もあり、自己負担に対する自意識と経済観念に乏しい実態が窺える。残りの35%は金額を承知していると答えている。（図-10.1）

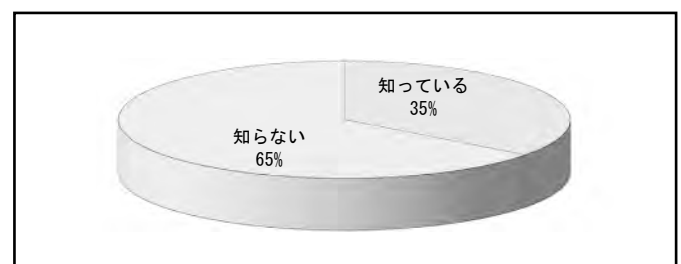


図-10.1 利用金額を把握しているか（保護者が負担していると回答した者）

③ インターネットを活用する上で必須であるセキュリティツールの利用（Q 11）については、利用している者が全体の半数弱（40%）であり、利用していない者（34%）とほぼ同数となっている。また更に問題であるのは、このようなセキュリティに対する意識をほとんど持ち合わせていない（問われていること自体何のことか分からない）利用者がなんと全体の約1/4（26%）を占めていることである。（図- 11）

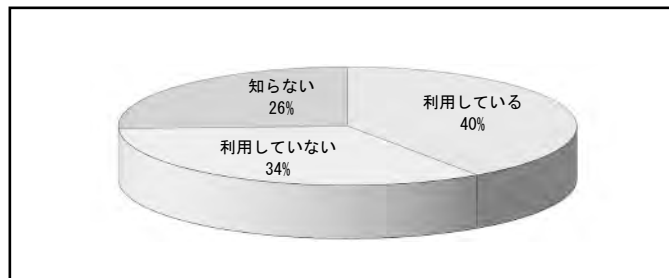


図- 11 インターネット等を利用する上でセキュリティを使用しているか

④ “迷惑やいたずらメールの受信頻度（Q 12）”については、多いとした者は意外に少なく（18%）、ほとんど無いと回答した者（82%）が大部分であった。（図- 12）この結果については、前問のセキュリティ設定と同ツール導入の状況と併せて以後考察したい。

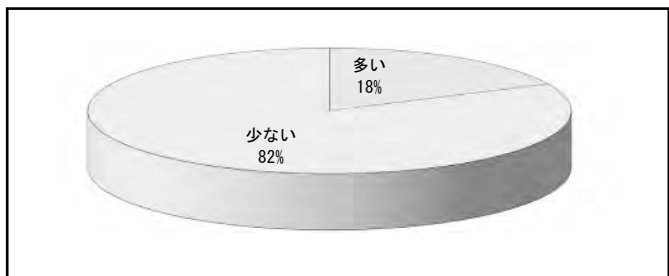


図- 12 スпамメール（迷惑メール）の受信頻度

④- 2 （Q 12 - 2）同“スパムメールの種類”で一番多いのは、アダルト系、2位がなりすましメール、次が商品の販売となっている。（図- 12.2）

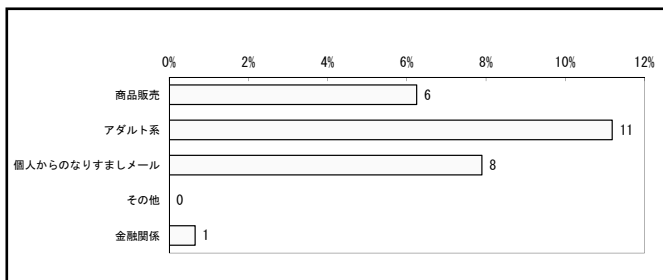


図- 12.2 スパムの内容（迷惑メールが多いと回答した者）

5.3 スマートフォンについて

① 自分自身を“スマホ中毒（依存症）”と思うか否か（Q 13）については、思わないとした者（62%）が多く、自覚している者（38%）を上回っている。（図- 13）自覚意識の有無についての自己判断の基準が無い以上、この結果をどのように捉えるかは今後考察の必要がある。

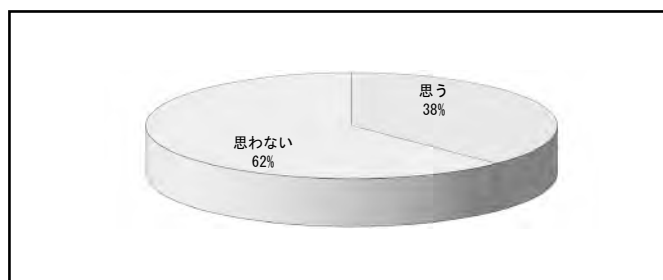


図- 13 自分はスマホ中毒（依存症）だと思うか

② 以上の各質問からモバイル情報機器の主流と位置付けられるスマートフォンの利用形態（Q 14 / 複数回答）については、“歩きながら”の利用が圧倒的に多く（74%）、2位が“勉強しながら（48%）”と“人と話しながら（47%）”の同時利用、次が“トイレをしながら（37%）”と“食事をしながら（36%）”と何と

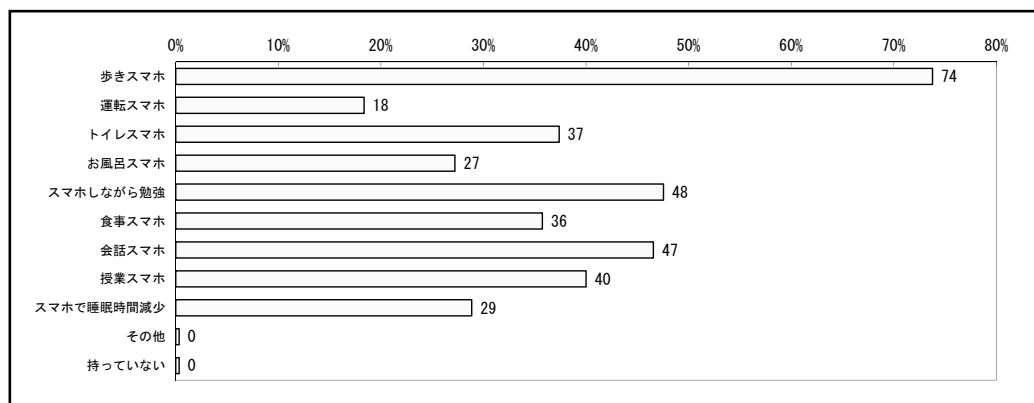
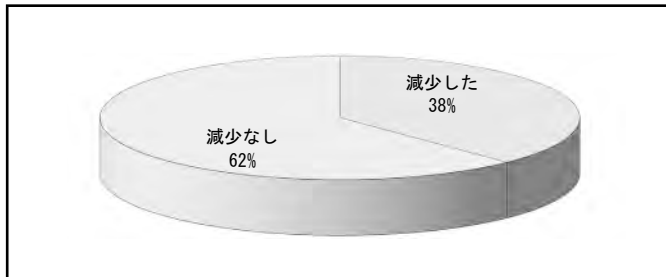


図- 14 スマートフォンの使用形態

“授業を受けながら（40%）”となっている。更に“風呂に入りながら（27%）”と“寝ながら（29%）”の利用が結構ある。また、自動車の“運転中での使用（18%）”もあり、これら全ての特徴は、あくまで本来の目的行動をしながらの副行動（ナガラ利用）としてのスマホ使用である。（図- 14）

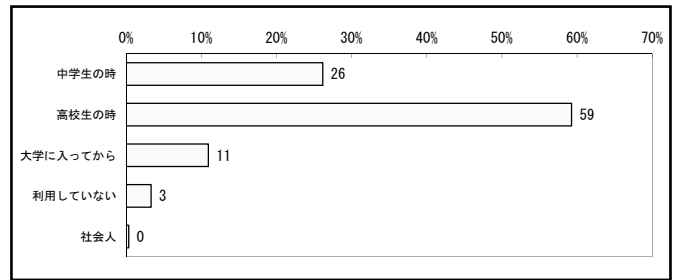
③ スマートフォンの利用により自分の睡眠時間が減った（Q 15）と思っている者（38％）とそのような影響は無い（減っていない／62％）と思っている者の比率は、ほぼ4：6となっている。（図－15）結果としては、やはり約4割の者が寝る間も割いてネットに埋没している状況が見えてくる。



図－15 スマートフォンの利用で睡眠時間が減少したか

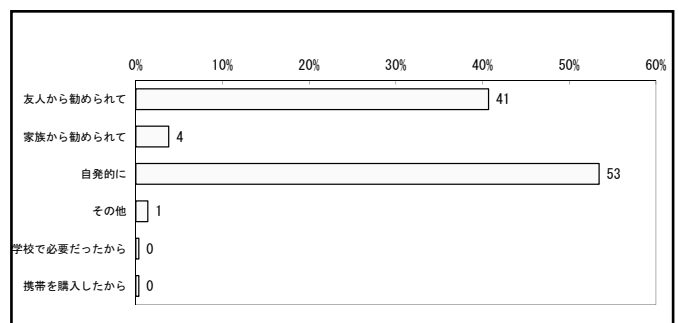
5.4 SNSの利用状況について

① SNSの利用を始めた次期（Q 16）は、高校時代が一番多く（59％）、次が中学時代（26％）、大学に入ってからには少なく（11％）、高校生とスマホとは切っても切れない関係がこの時に形成されていることが分かる。（図－16）

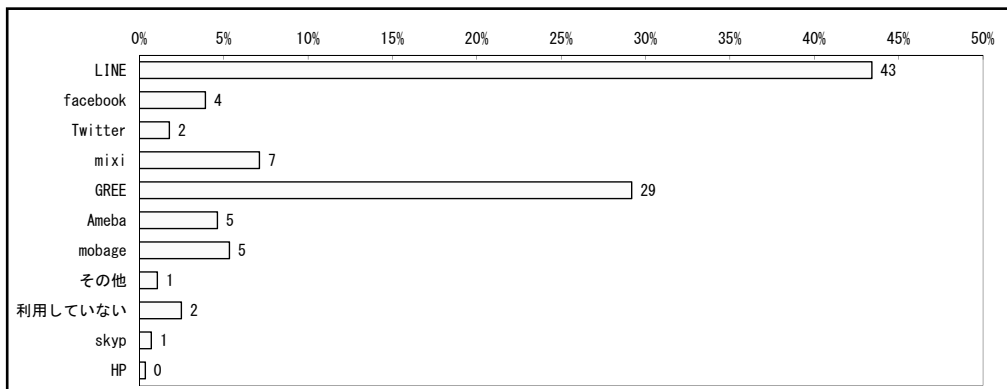


図－16 どの時期にSNSを始めたか

② SNSを始めたきっかけ（Q 17）としては、周りからの誘い掛けなどではなく“自発的”にという者が一番多く（53％）、次の友人からの影響（41％）と回答している者を合わせるとそのほとんどを占めている。（図－17）



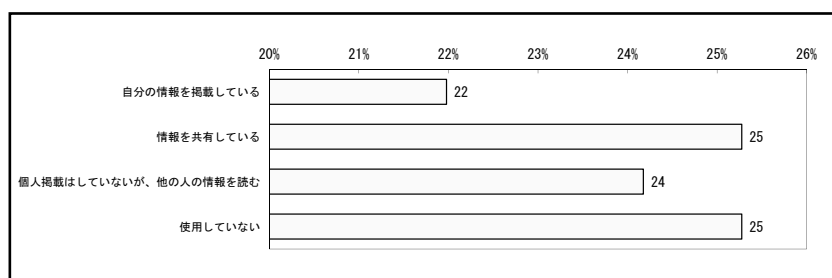
図－17 SNSを始めたきっかけ



図－18 最初に始めたSNS

③ 最初に始めたSNS（Q 18）としては、圧倒的にLINEが占めており（43％）、次に多いのはGREEで（29％）となっていて、意外にmixi（7％）とFacebook（4％）やmobage（5％）とAmeba（5％）やTwitter（2％）などの若者利用は極端に少ないことが分かった。

（図－18）



図－19 個人情報やSNS等でどのように利用しているか

④ SNS上での情報の活用形態（Q 19）については、他人と情報を共有しているとした者（25％）と自分の情報は開示して見なく専ら他人のアップ情報だけを見ているとした者（24％）がほぼ同比率で各約1/4となっており、自分の情報を掲載している者（22％）とSNS上の情報は活用していない者（25％）と各々で四分している。（図－19）

⑤ SNS 上への個人情報の登録状況 (Q 20) については、実名登録者がほぼ半数 (48%) を占めてはいるが、仮名による登録者も結構多い (36%)。また、年齢と性別と職業なども実データで登録をしている者が多くいる。(図-20)

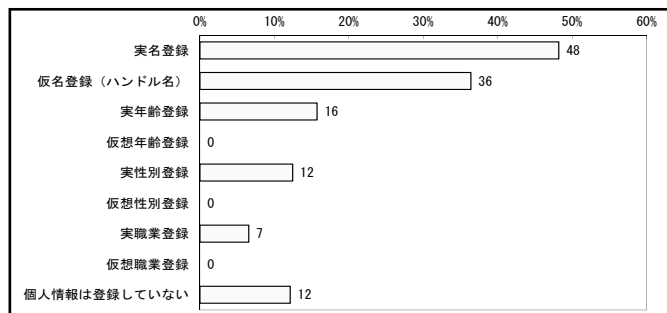


図-20 SNS 上での個人情報等の登録形態

⑥ 利用する SNS はどのようなタイプ (Q 21) が良いかについては、分からないと回答した者が半数 (50%) いるが、登録制が良いとした者が一番多く (37%) で、次に会員制で (7%)、後の招待制 (2%) や紹介制 (3%) などは少ない。(図-21)

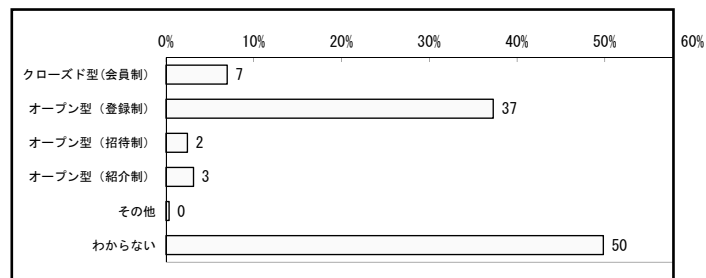


図-21 SNS はどのようなタイプ (型) が良いと思うか

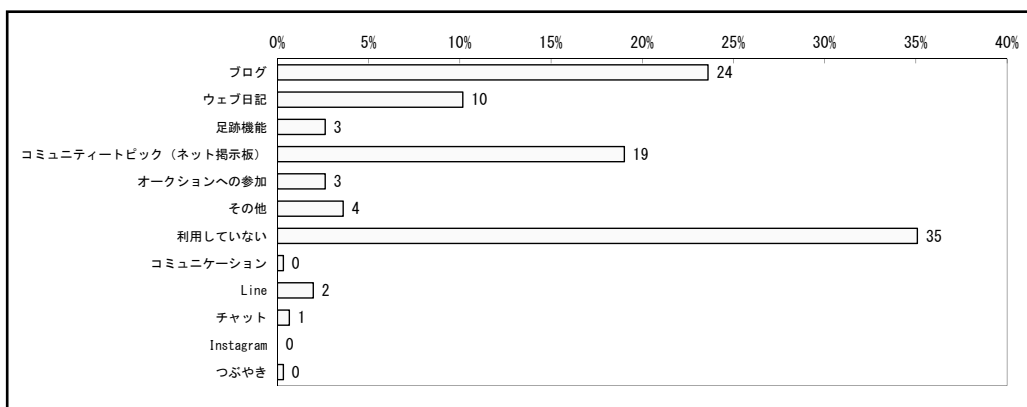


図-22 SNS のどのような機能を主に利用しているか

⑦ SNS で利用している機能 (Q 22) については、利用していない者 (35%) を除けば、ブログ機能が一番多く (24%)、次にネット掲示板 (19%) で、その後ウェブ日記 (10%) と続き、他の足跡機能 (3%) やオークション参加 (3%) などは僅少である。(図-22)

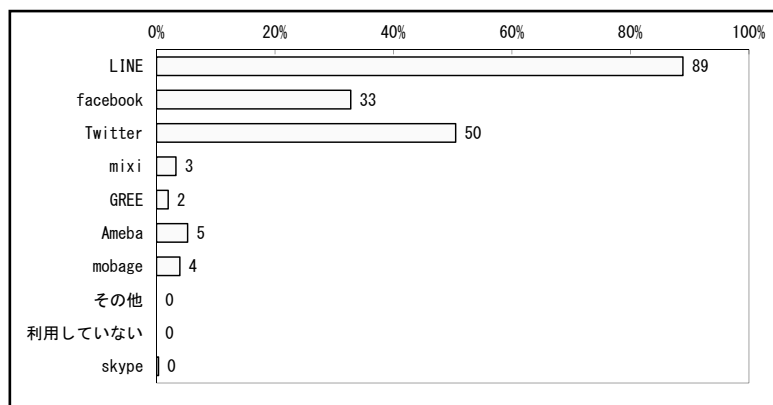


図-23 現在はどのような SNS を利用しているか

⑧ 現在利用している SNS (Q 23 / 複数回答) については、LINE が圧倒的に多く (89%)、次が Twitter の利用 (50%) で、その次が Facebook (33%) となっており、この 3 者で利用ツールの大部分を占めており、他のツール利用者は僅少である。(図-23)

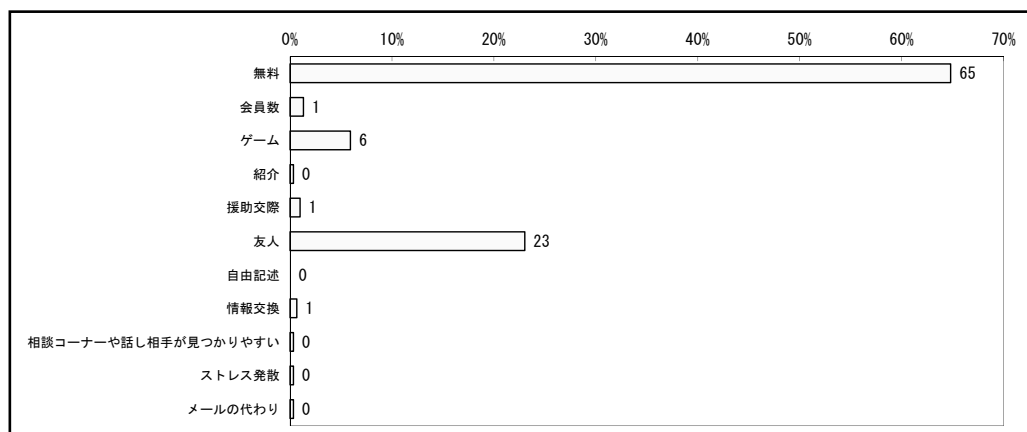


図-23.1 現在使用している SNS はどの点が良いと思って利用しているか

⑧-1 現在使用している SNS は、どのようなメリット (Q 23-1) を感じて利用し始めたのかについては、“無料”だからと回答した者が圧倒的に多く (65%)、次の友人が使っていたから便利そうに感じた (23%) との意見が多かった。また、ゲームができるからとの回答も若干 (6%) あった。(図-23.1)

⑨ 学生達がスマートフォンを一日平均してどれ位の時間使用しているか（Q 24 / 記述式）については、平均 4.7 時間 / 日という利用時間を回答している。この 4 時間 42 分を長過ぎると評価するのか、この世代の若者層であれば普通と判断するのかについては、基軸が明確ではないので断定的に評価できない。しかし、ほぼ毎日一つの品物を 5 時間弱集中して触り続けるというのはやはり相当に特異な状況ではないかと考える。

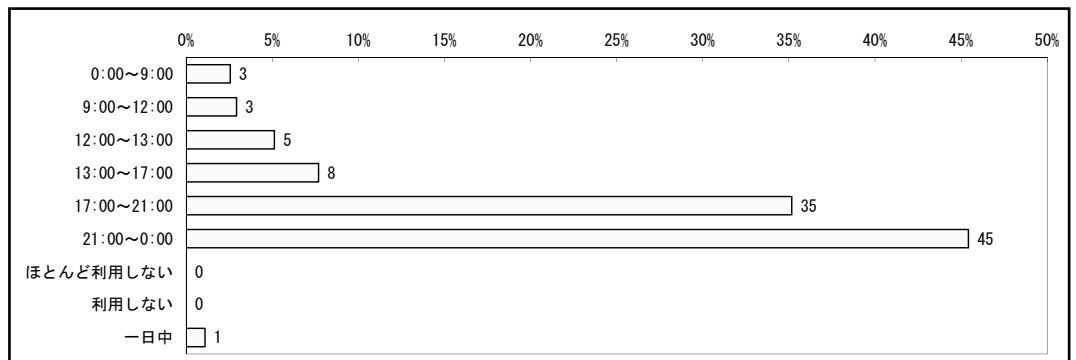


図-25 スマートフォンや SNS などを一日の中のどの時間帯で一番利用しているか

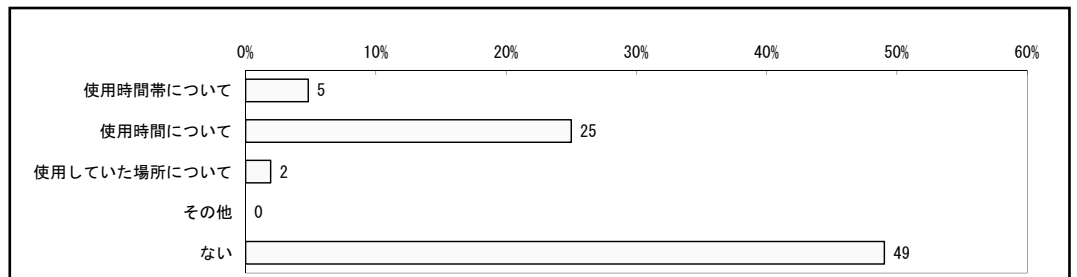


図-26 スマートフォン等の使用について周りから注意された事の有無とその内容

⑩ スマートフォンは一日のどの時間帯に主に使用（Q 25）しているかについては、帰宅してからの夕方から夜時間帯（17～21 時（35%）、21～24 時（45%））での使用に集中して一番多く約 80% を占めている。（図-25）日中（昼を挟んだ前後時間帯）での使用は、授業等の合間の休み時間帯での僅かな利用に限られているようだ。

⑪ スマートフォンを使用していて周りの人間から何か注意（Q 26）されたことがあるかどうかについては、言われたことが“全く無い”と回答した者が約半数（49%）であるが、約 25% の者が使用時間（長過ぎる）に対しては注意された経験を持つことが分かった。使用の時間帯（5%）や場所（2%）などに対するものは僅かであった。（図-26）

⑫ SNS を利用しているのトラブル発生の有無（Q 27）については、ほとんどの者が“無い”（92%）と回答し、

何かあった経験を持つ者は（8%）少なかった。

（図-27）

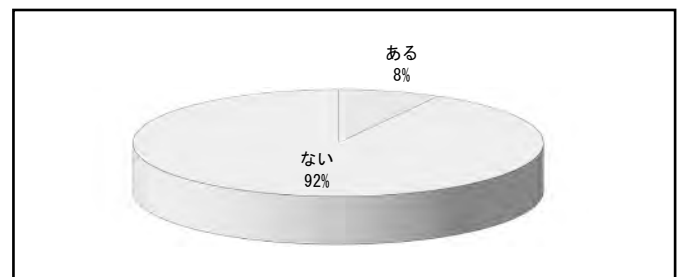


図-27 SNS 利用上でのトラブル発生の有無

⑫-1 遭遇したトラブルの種類（Q 27-1）で一番多かったのは、“書込みによる友人関係（43%）”の問題発生で、次に“金銭関係（17%）”と“なりすまし（17%）”による被害が多く、他に個人情報の漏洩（9%）と女性問題（4%）などがあった。（図-27.1）

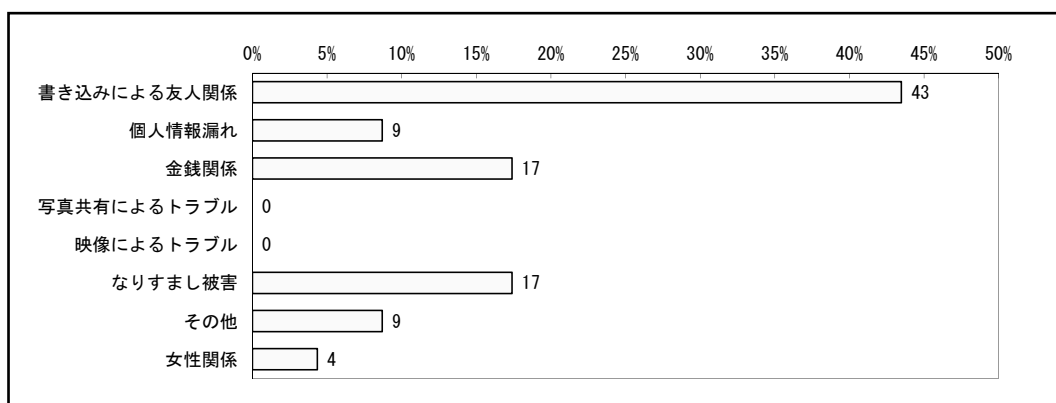


図-27.1 発生したトラブルの種類・内容（発生したと回答した者）

⑬ SNSを利用する上で自分がどの程度そのツールを理解（Q 28）して使用しているかどうかについては、“理解している”と回答した者が約半数で一番多く（45%）、次が“十分理解している（25%）”と“不明な点もあるが一先ず利用している（24%）”に二分している。あと不明な点が多いとした者（6%）もいる。（図-28）

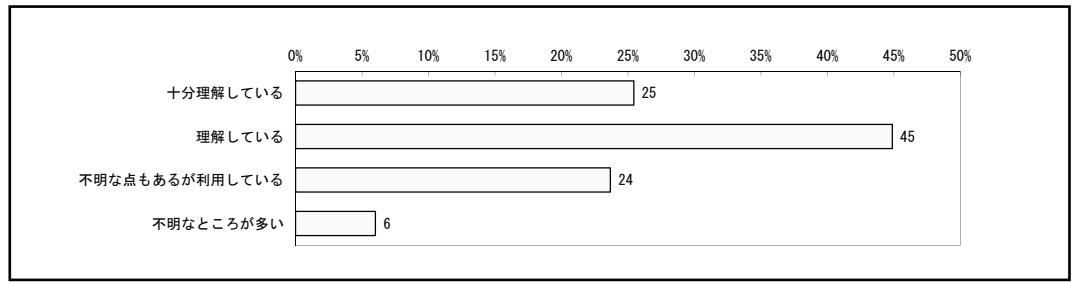


図-28 SNSに対する自分の理解度

⑭ SNS上で発生している各種事件などを知っているか（Q 29）どうかについては、“知っている”がほとんど（86%）で、残りの者が知らない（14%）としている。（図-29）

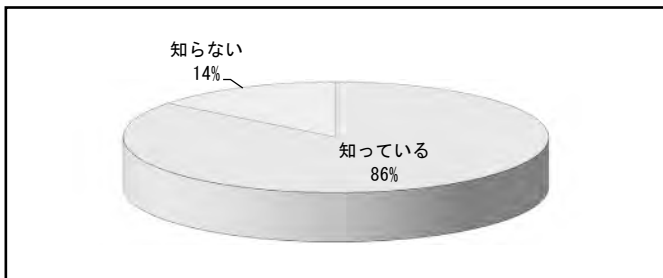


図-29 SNS上で発生したトラブル（事件）等を知っているか

⑮ SNSの利用ではトラブルが発生し易いと感じているか（Q 30）どうかについては、“感じている”と回答した者が非常に多く（70%）、“感じていない（30%）”を上回っている。（図-30）

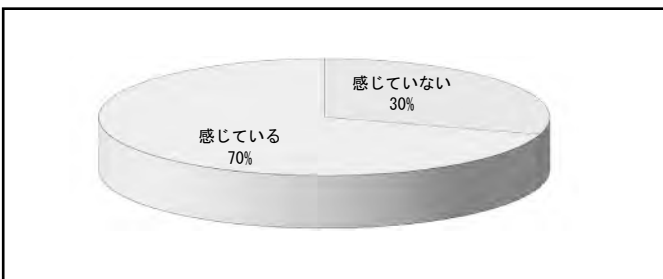


図-30 SNSの利用ではトラブルが発生すると感じているか

5.5 ネット利用に際しての意識について

① SNS上では、直接知らない人でも“友人の又その友人は自分の友人”と思うか（Q 31）どうかについては、圧倒的にそう“思わない”が多く（93%）、そのように“思う（7%）”を断然上回っている。

（図-31）

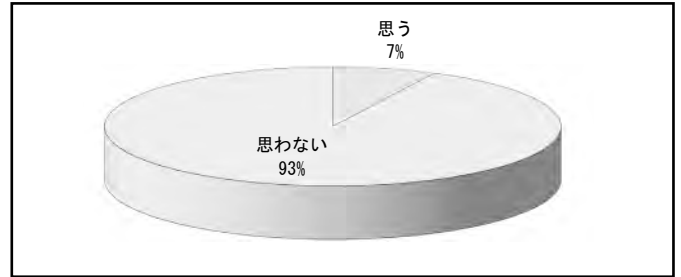


図-31 SNS上の友人のその又友人は知らない人でも友人だと思うか

② SNSを利用して何をしたいと思っているか（Q 32）については、“情報を得るため”と回答した者（59%）が一番多く、次が“人とのコミュニケーションを得るため”（38%）で、あと“友人を作るため”が若干あり、自分を知ってもらいたいとの目的はなかった。

（図-32）

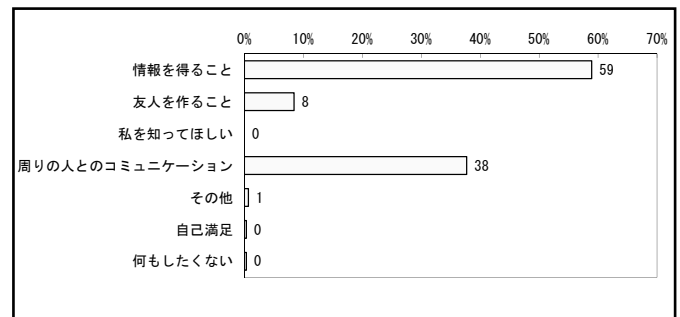


図-32 SNSを使って何をしたいか

③ SNSを利用することで知り合った友人がいるか（Q 33）どうかについては、“いない”と回答した者（63%）の方が“いる”とした者（37%）より多いが、それでも約4割の利用者がネットという仮想環境の中で新たな人間関係を築くことができていることが分かる。

（図-33）

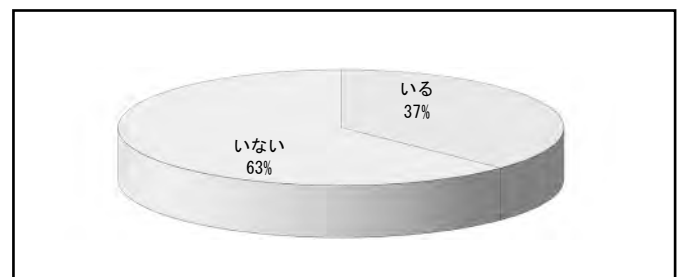


図-33 SNSで新しく知り合った友人はいるか

③-1 ネット上で新しくできた友人と直接会ったことがあるか(Q 33-1) どうかについては、あるとな
いが同比率(50%)である。(図-33.1)



図-33.1 その人と直接会ったことがあるか(SNSで知り合った友人がいると回答した者)

④ SNSに対してはどのような意識を持って利用しているか(Q 34/複数回答)については、自分だけの“プライベート”な情報空間での使い方ができる(46%)とメリットを考えている者が多い反面、SNS上の情報は“いずれ流出する(42%)”や利用者には“偽善者がいる(44%)”や“不用意な発言は批判にさらされる(41%)”ことを前提に注意した方が良いとの認識を持っている者も多岐にわたることが分かった。また、“他人への批判ツール(13%)”となり得ること、“匿名性の脆弱さ(20%)”などへの意識も多くの方が持っているようである。

(図-34)

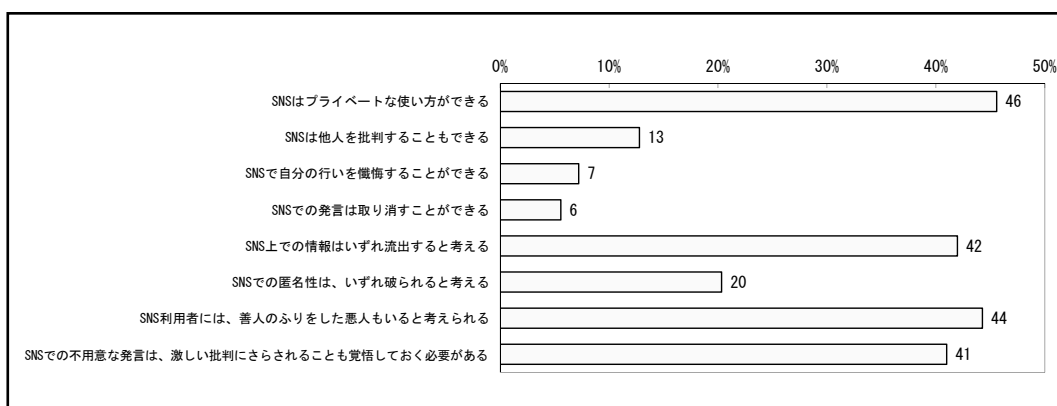


図-34 どのようなことを想定してSNSを利用しているか

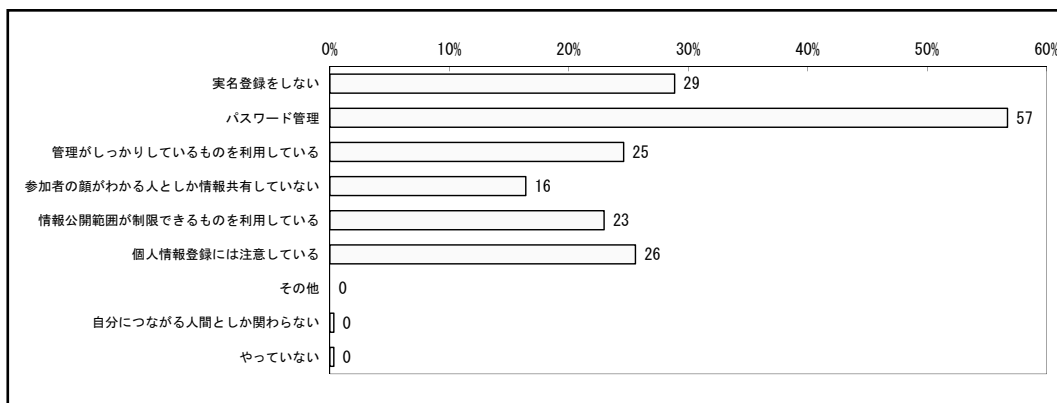


図-35 SNSを利用する上で注意している点

⑤ SNSを利用する上で特に注意している点(Q 35)として、“パスワードの管理”が筆頭に挙げられており(57%)、その他に、“実名登録をしない(29%)”や“個人情報を入力しない(26%)”

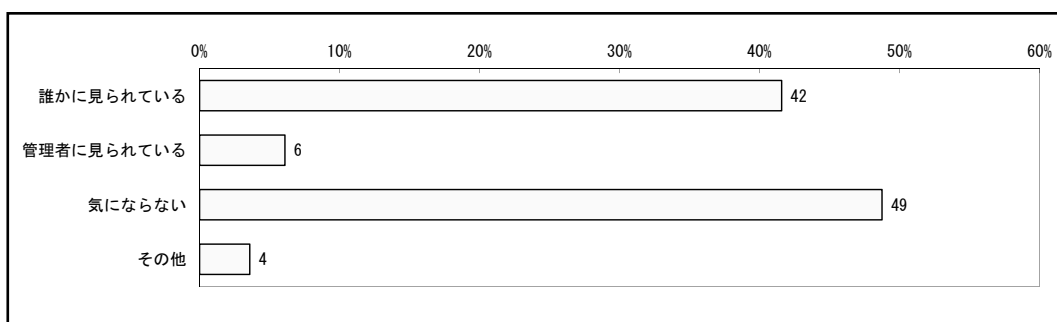


図-36 SNSを利用する上で、他のユーザーの目は気になるか

や“運営管理の信頼性が高い(25%)”や“情報の公開制限(23%)”や“参加者の顔が明確なサイト(16%)”などが高位に列挙されている。(図-35)

⑥ SNSを利用する上で他の参加者の目が気になるか(Q 36)については、“気にならない”と回答したものが約半数(49%)を占めてはいるが、反面自分の情報は“誰かに見られている”と考えている者(42%)も半数であり意識が二分していることが分かった。しかし、サイト管理者にも見られているとの認識(6%)は意外に少ないようである。(図-36)

⑦ 今後もSNSは利用するか(Q 37)どうかについては、“利用する(57%)”と回答したものが多く、“必要に応じて利用する(39%)”を含めるとほとんどの者が利用継続を望んでいることが分かる。(図-37)

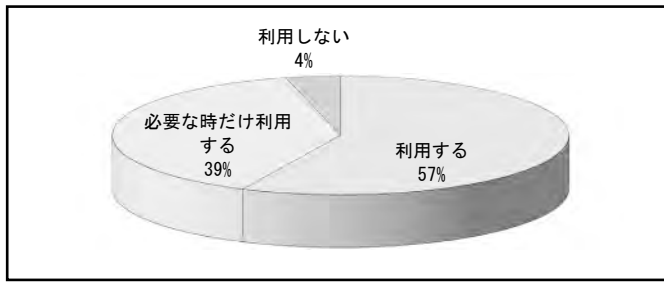


図-37 これからも SNS は利用したいか

⑧ 今後の自分のネット生活に必要な情報機器は何であるか(Q 38 / 複数回答)については、圧倒的に“スマートフォン”と回答している者が多く(87%)、次が“ノートパソコン(30%)”、“デスクトップパソコン(13%)”を挙げており、タブレットを候補機器に考えている若者は少ない状況(8%)である。(図-38)

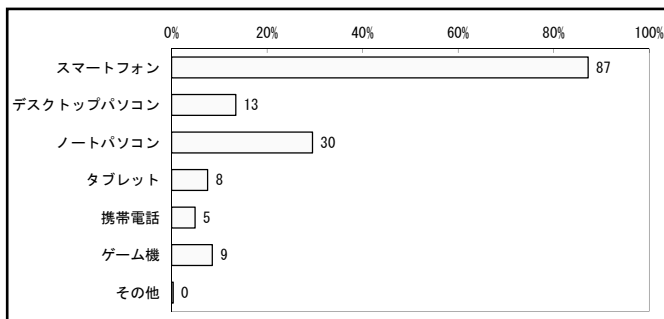


図-38 あなたにとってこれからのネット生活に必要な機器類は何か

⑨ 最後の質問として、現実と仮想のいずれの世界に興味を持つか(Q 39)については、ほとんどの者が“リアル(86%)”と答え、“バーチャル”と答えた者(14%)を凌駕しており、若者の大部分は健全な意識を有していることが分かった。(図-39)

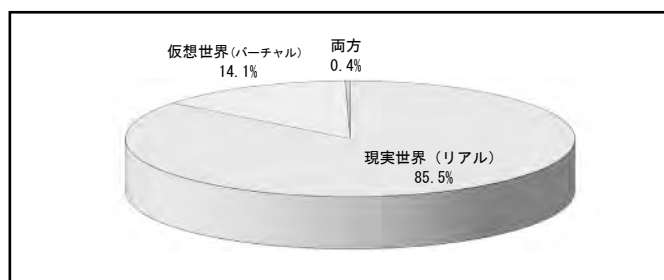


図-39 あなたは、現実世界(リアル)と仮想世界(バーチャル)のどちらに興味があるか

6. 考 察

6.1 基本情報について

① 今回の情報通信環境に対する基本調査から、現代の若者が主に使用している機器は、デスクトップパソコンとノートパソコン及びスマートフォンの3機種に集約できる。この中でも圧倒的にスマートフォンの保有

率が高く、他のいわゆる“コンピュータ”と呼称されるパソコン機器に対して群を抜いている。利用形態では、デスクトップPCは家族共用で、ノートPCは個人所有の傾向が強く、スマートフォンに至っては非共有の典型で本来のパーソナル性が高度に保持できている機器といえる。手のひらサイズで軽くて薄い筐体の中に一昔前のパソコンのデータ処理能力を遥かに凌ぐ高性能CPU(中央演算装置)や大容量メモリチップ(記憶素子)などが組み込まれており、この1台で通常の文字と数値データ処理は勿論、画像処理(静止画及び動画の撮影(デジカメ)と再生機能)や音声処理(音楽再生機能)を行い、無線により移動可能なインターネット常時接続(ウェブブラウザ機能)環境下での各種の情報交換とコミュニケーション機能と電子メール送受信と電子決済システム(カード機能)と全地球測位情報の取得(GPS機能)に加え本来の携帯電話送受信機能を有し、防水・防塵・防磁・防振化ケースで保護され、ポケットに入れて世界中どこでも気軽に持ち運べると、まるで魔法のツール(道具)と呼んでも過言ではないだろう。更にこの商品が学生の懐金程度予算でも何とか購入可能な時代となってきている。そして、このツールは他人と共有すること無く完全にプライベートな所有物となり得る。これこそ名称どおり本来の「超多機能小型モバイル携帯電話端末機」であろう。この便利過ぎるツールの若者層への爆発的な普及により、従来の古典的ないわゆる“電子計算機=コンピュータ”は、特定目的別の科学技術や商用技術分野における大規模データ処理装置となって生き残ることにはなっても、決して生活の為のツールとは成り得ないと想定できる。若者達は、このツールを基に技術史上稀に見る独特の「スマホ文化」を今築きつつある。

② これだけ多機能化された電子機器を利活用するとなれば、当然その操作手順も複雑怪奇になり膨大なマニュアルを駆使しなければ使いこなせないと考えべきである。しかし今回の調査結果からも、若者達は機器の取扱説明書(取説=マニュアル書)など見向きもせず、我々大人から見ると何とも不可思議に身軽かつ軽快に次から次に臆すること無く多種多様な機能を使いこなしていると回答した者が非常に多くいる。この柔軟性の違いは何かを考えるに、“先ず必要な個々の知識を事前修得し、それを繋ぎ合わせ積み上げ頭で考えながら操作手順を正確に辿っていく”という先人達の教えに依るか、“目的に辿り着くルートをフィーリングに沿って感覚的に見付けて行く、又は“分からないことは知っている人に直ぐ聞く(訊ねる)”という“スマホ文化人”方式に依るかだと思える。

③ スマートフォンのマンマシンインターフェース操作

は基本的にタッチパネル方式である。この点が古典的なコンピュータのデータ入力インタフェースであるキーボードとの違いである。しかし、この2つのインタフェースは全く異なる目的の為に準備されているものである。前者タッチ法はタスクへの指示(作業命令)を与える装置(マウスとほぼ同様仕様)であり、後者キーボードは明らかにデータを入力する為の装置(トグル入力又はフリック入力とほぼ同様仕様)である。今回の調査では、最初からいわゆるガラパゴス携帯(ガラケー)と呼ばれる従来の日本独自携帯電話から慣れ親しんできた現在のスマートフォン利用層は、JISキーボードを利用した公式ブラインドタッチに習熟していない者が多くみられ、タッチ操作(主にテンキー方式)に拘る傾向が強い。この点では、画面上に表示されるソフトウェアキーボード(QWERTY方式)やドッキングキーボードを利用できるタブレットは一種のノートPCの変形タイプとの思いがあり、スマホ層になかなか普及しない一つの原因とも考えられる。将来的には、音声入力機能がより正確で充実できれば、データ入力に関してはその方向に移行するものと想定できる。

6.2 インターネットの利用について

- ① スマートフォンなどのモバイル端末の使用料(本来の電話機能と電子メール及びインターネットの接続料金を含めた携帯通信キャリア会社や同プロバイダ)の支払いは学生本人(10代若者)ではなくその保護者(親)であり、更に当該金額を学生自身が把握していない(知らない)者の方が多いということが今回の調査から分かった。金額を承知している者によれば、おおよそ1万円前後の支払いをしてもらっており結構高額な通信費を親任せという現状がある。
- ② スマートフォンなどのモバイル端末機でインターネット通信を安全に行うためにはセキュリティが必要ということは、ユーザのほとんどが認識していることではないかと思われる。しかし、現実には一体どのような危険があるのか、そしてどのように安全を確保すればよいのかが不明という者が多いのではないかと考えられる。その状況は今回の調査からも約6割(非対応と無知の合算比)の者が無謀にも未対応となっていることから分かる。一般に言われるのは、“市販(若しくは信頼性の高いフリー(無料)ツール)のセキュリティソフトウェアをインストールする”ということではないだろうか。ところが適当な当該ツールのどれが良いのかの選択に困り、いつの間にか放置したままとなっているのではないだろうか。あまり難しく考えなくても、セキュリティ対策で先ず誰にでも簡単にできる最低限かつ非常に有効な対策法がある。それは、

自分が使用しない時には必ず「スクリーンロック(画面のカギ)」機能を掛けておくこと。ただそれだけで端末機を盗難又は紛失した時に他人に使用されることを完全に防止可能となる。このような被害に遭った場合の最初の対応はできるだけ早く“電話会社(携帯キャリア)に使用の停止を届け出る”と言われているが、これはただ単に通信キャリア回線にストップを掛けるだけであり、最近は何処でもWi-Fi環境が整備されてきているので、拾った者はいくらでも“なりすまし”て他人のスマホを自由に使用できる。画面にロックが設定されていればその犯人は何もできないし、大切な個人情報の流出も防ぐことができる。これと併せて、できればSIMカード(携帯キャリアとの契約情報等を記憶しているICカード)にもロックを掛けておくことをお勧めする。但し、この方法ではウィルスの防止はできない。次にユーザが必ず守って欲しいことは、“信頼できないメールやSNS上のコメントなどに添付されているファイルやURLのリンクを決して開かない”ことである。身元が確実な発信者からのものだけに対応する。今回の調査では、いわゆるスパムメールへの認識が意外に低い(8割が“無い”と回答)結果であるが、注意した方が良いように思う。後は“一切無視”これを厳守するだけでウィルス被害も含め個人情報流出も防止可能となる。最善の方法は、当然有料市販の“ウィルス対策セキュリティソフトウェア”を購入してインストールすることである。しかし、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末機に当該専用ツールを適用しているユーザは少ないのが現状である。

6.3 スマートフォンについて

- ① スマートフォンなどのモバイルインターネット端末機を24時間触っていないと落ち着かない人々、いわゆる「スマホ“依存”症(厳密には“中毒”者とは異なる)」の自覚がある学生が4割(残り6割はそのようには思っていない)という結果は、やはり多いと感じるのか否か。どのような症状を当該中毒と断じることについてのきちんとした線引きが困難である為何とも評価できない。しかし、本来は便利であるべきコミュニケーションの補完ツール(生活の道具)としてのスマホが、人と人の真のコミュニケーションを阻害し、“睡眠不足”が続くことによる“うつ病”の発症も心配されており、放置すれば脳の損傷にまで至るとの研究もあることを考慮すると、これは看過できず今後重大な社会問題化してくるものと考えられる。しかし、今回の調査では、“依存”の自覚意識と“睡眠不足”の自覚意識が全く同等比率(4(無し)対6(有り))である結果は非常に興味深いと思われる。

- ② また、次の調査からは、身の危険に繋がる“歩きスマホ”派を筆頭に、運転中・トイレ中・お風呂中・勉強（授業含む）中・食事中・人と会話中など、一日の生活の中での主要な活動と同時進行（……中）で必ず“スマホいじり”が付いて廻る若者達の状況が明瞭となっている。

6.4 SNSの利用状況について

- ① ほとんどの若者は、スマホを中学時代からもう既に徐々に使い始め、高校生となり親の保護が弱まり又アルバイト等により金銭的にも多少の余裕ができる16～18歳に急激に保有率が上がっている。大学入学後に初めてスマホを手にした者など1割程度である。しかし、中・高生の生活パターンの中で、本当にモバイル携帯端末機（スマホ）が必要なのだろうか。未成年者である以上、彼らは自分一人で勝手には購入できないはずであるから、当然保護者が購入を代行しており、その結果として前述のようにその通信費用の経済的負担まで担っている現状がある。この点では、親の考え自体を正す必要があるとも思える。子供達が両親にスマホの購入を強請る理由として挙げられることの筆頭は、“友達から仲間外れにされる（=いじめに遭う、周囲の人々とコミュニケーションが取れなくなる）”とのことのように、どうも機器が必要な本質とは懸け離れた消極的理由である。これは、スマホという機械が、コミュニケーションツールではなく、明らかに“疑似的コミュニケーションの輪”に入れてもらう為の一種の“免罪符”化しているように感じる。この結果は、SNSを始めた切っ掛けとして“自分の意思（自発的に）”でと回答している者も2位の“友人からの誘い（仲間に入らないか？）”と同等の理由で、潜在的誘惑によるものではないかと想定する。
- ② 学生達はどのようなコミュニケーションツールを主に利用しているのだろうか。また、その使用の理由についても併せて今回のアンケートから概略を考察してみたい。まず、最初に使い始めたSNSは、第1位は約4割の者が“LINE”で、第2位が“GREE”で約3割に集中し、あとの色々なツールは全て1割に満たない。そして、現在使用しているサービスツール（複数回答可）は、第1位が順位は変わらず“LINE”であるが、使用率9割となり圧倒的な人気を誇っている。第2位は最初のツールとしては僅か2%であった“Twitter”が5割と急増している。また、同様に最初は4%の使用率であった“Facebook”が第3位に突然約3割のユーザを獲得している。尚、最初2位の“GREE”が逆に僅か2%の使用率に激減している。最初もその後ずっと“LINE”がトップの座を占めている理由は一体何なのだろうか。今回の学生への質

問結果では、主要な2点として“無料”であることを筆頭に経済的負担が掛からないことを挙げており、さらに周りで使用している友人が多くその結果コミュニケーションの相手も増えるとの理由を挙げている。何故に“LINE”は若者層に対して常に人気があるのだろうか。この点に対しては、次報（第2報：「SNSにおける関係形成原理と課題及び対策について（仮題）」）において、もう一寸具体的な仕様とサービス内容及び利用方法の違いなどを他のSNSと比較しながら探ってみたいと考えている。

いずれのSNSであっても、その基本的特徴として通話やテキスト情報を離れた複数の人間間（グループトーク）で即時に空間と時間を飛び越え共有して送受信できるサービスを提供している。若者達にとっては、仲間が傍にいらなくても通常“お喋り”感覚で利用できる、いわゆるドラえものの“どこでもドア”である。当該機能を有した無料アプリであれば他にも多くのツールが存在しているが、先ずLINEが特徴的であるのは、“ユニークで可愛いスタンプ”の種類が他に比較して圧倒的に多いことが若者に受ける一つのポイントと考えられる。次のポイントは、このアプリを起動していなくても即時にメッセージや通話の着信を勝手に知らせてくれて画面表示する“プッシュ通知”機能ではないかと思われる。ネット仲間とは、時間と場所に関係無く、“いつでも、どこでも”常に“つながっていたい”、という現代若者の心理を巧みに突いた機能で人気を博しているものと考えられる。

- ③ 従来のデスクトップパソコンのように家族共用の家電装置でなく、完全私物化しているスマートフォンの一日におけるトータル使用時間とその時間帯については、前述の“ながら使用（併行動）”派が若者の大部分を占めている現状から想定して、大袈裟に言えば“寝ている時間以外はいつでも触っている、見ている”と考えて良いのではないかと思われる。集中して利用が可能な時間帯としては、やはり学校から帰って来からの夕方から夜中遅くまでの眠るまではずっと手に持っている状況である。ネット上での自分の発言が、周りの人間にどのように受け止められて、どのような反応が戻ってくるのかが兎に角気になって気になって仕方無く、先方から反応（“既読”の表示返信）があれば直ぐにこちらも反応（返信の返信）するメッセージの反復往来（既読マークがあるのに返信しないのは重大な“ルール違反”とのネット仲間掟）の止め処無い繰り返しが発生する。やはり一種のITC現代病（中毒・依存症）に陥っていると考えられる。更に、最近の家は個室構造が多くほぼ完全な密室子ども部屋（プライベートルーム）であり、家族構成も共働き世帯中心で親子の接触と会話も極限化している中では、特に

注意なども受けることもなくほぼ無制限（やりたい放題）に使用が可能であり、若者にとっては願っても無い“ベストな環境”が出来上がっている訳である。

- ④ 最近の事件ニュース報道などでは頻発しているスマートフォンを中心としたモバイル端末の使用に関連した各種のネットトラブルであるが、本学学生の今回調査からはほとんど見えてこない（9割強がトラブルに巻き込まれたことは“無い”と回答）。これはどのようなことを意味するのであろうか。僅少のネット被害の第1位としては“書き込み行為の結果による友人関係”への悪影響が挙げられている。あと、人との“金銭問題”発生と“成り済まし”による事件が出ている程度である。このネットトラブルについては、他に関連質問として以下のような結果が出ている。
- ・ SNS に対する理解の度合い：7割が（十分）理解しているとの自信を持ち、残りも多少不明な点はあるが使用には影響しない程度の理解は持っている。
 - ・ ネットトラブルが社会問題化している事への認知：9割弱の者が知っている
 - ・ SNS などの利用には最初から何らかのトラブルは伴うものとの前提意識の有無：7割の者がそのつもりで対処している。
 - ・ ネット上での仮想的友人関係：いわゆる“友達の友達は友達である”との認識は9割強の者がそのようなは思っていないと回答し、あくまでネットの中での限定的な仲間であり、生（リアル）な人間関係とは切り離して付き合っているとの判断が垣間見えてくる。この結果、全体の約6割強の者が SNS 友人はいないと断言している。ネット友人を作った者（約4割弱）の中で、直にその人物との面会経験の有無に対する比率は丁度半々であり、この行動を現代若者の果敢な特徴的精神の顕れと見做すか否かは判断に迷うところである。
 - ・ SNS に対する基本認識：あくまで“プライベート”なツールと環境であり、決して公（パブリック）に公表するようなものではない。しかし、自分あるいは他人の情報はいずれは知られる（流出する）ことを前提としており、最初の匿名性などもその内に無くなるだろうとの認識である。また、ネット上の人物はあくまで仮想的な人間との認識も持ち、買い被り（善人ぶった悪人）に騙されないようにとの用心もしている。更に、不用意な発言や書き込み等ほもしかすると炎上の結果、激しい批判に晒される被害を蒙るとの自覚を持つべきとの認識も有している。
 - ・ 個人情報への安全保障感覚：SNS の世界はプライベートであるとの自己認識が強いことが分かった訳であるが、その実際の対応状況について調べた。先ず個人情報保全の要である“パスワード（暗証番号）”の管理に最大の注意を払っているとした者が一番手に挙がっ

ており6割弱もいる事は非常に頼もしく思える。また、安易に“実名（登録）”は使用しないとか“信頼（管理）のおけるツール”しか使用しないとか“匿名者（偽名）とは共有”しないとか“情報管理に制限”を設けているツールを使用するなど学生達は想定以上に自分の情報管理には気を付けていることが判明した。

- ・ ネット上の他ユーザからの視点：約5割の者が“気にしない（ならない）”と割り切っており、4割強が“見られている”との前提認識は持っているがそれはそれで割り切って使用しているとの感覚である。意外とツール提供側の“管理者”に対する警戒感を有していないことも分かった。これは、それこそ提供（者）側を信頼することしかできない訳であるが、果たしてそうであろうかとの危惧がある。

これらいくつかの意識調査によると、学生達は一般に考えられているよりも遥かに慎重にかつ精神的防御意識を持って SNS などのツールを結構“クール”に使いこなしている状況があり、その結果として想定以上に重大なトラブルに巻き込まれている件数が少ないとも考えられる。そして、今後もスマートフォンを中核商品としたモバイルインターネット接続多目的ツールと SNS などの不特定多数者とのコミュニケーションツールを使用し続けたいかどうかに対する答えは、ほぼ全員（約95%）が一致して“YES!”であり、更に“必要な時だけ、必要なだけ”使うという効率的考えの者がこの中4割を占めていることは好感が持てる結果である。また最後の締め括りとして、あなたは、「リアルな現実世界」と“バーチャルな仮想世界”のどちらに魅かれますか?との問いについて、9割弱の学生達が「現実」に対して、やはり肯定的にはっきりと“YES!”と回答したことは非常に幸いと思う。

7. ま と め

今回の本学学生達に対するこのモバイル端末機等及び SNS の利用環境と活用状況と利活用意識についての調査を企画する発端は、現在社会問題化している「スマホ依存症」とその結果としての「ネットトラブル」の多発防止が目的であった。実際に著者等の周りには相当数の“スマホ中毒”ではないかと思えるような光景があるように認識していた。確かに行き過ぎた加熱気味の ICT 社会の問題点も多く散見できる面は現存している。しかし、今回の結果からは若者達のまるで水を得た魚のようにモバイル携帯端末を駆使してインターネットの大海の中でクールに大波小波を乗り越えながらネットサーフィンしている様子を把握することができた。老婆心で始めた当該調査研究の第一弾であったが、何も心配する必要は無いと思う。視点を変えて、これから更に加速進展し

て行くであろう近未来の高度情報通信社会の波に上手に
乗れず取り残されて行くのは、もしかすれば柔軟性を欠
いた我々大人ではないかとも考え、戒めの一つとしたい。

※謝辞：今回の調査とデータ処理及び結果の検討などに
協力を頂いた西九州大学短期大学部食物栄養学
科の諸先生方と同短大部学生と同大学子ども学
部の学生諸君に心から感謝致します。

資料

ネット環境と SNS に関するアンケート

該当する項目の番号に○をつけて下さい。

Q 1. 学科

1. 食物栄養学科 2. 生活福祉学科 3. 幼児保育学科 4. 子ども学科 5. 心理カウンセリング学科

Q 2. 性別

1. 男性 2. 女性

Q 3. 環境状況（複数回答可）（ ）は自由記述

1. 共有デスクトップパソコン 2. 個人用デスクトップパソコン 3. 共有ノートパソコン
4. 個人用ノートパソコン 5. タブレット 6. ゲーム機
7. スマートフォン 8. 携帯電話（ガラケー） 9. その他（ ）

Q 4. 情報の資格は持っているか？（ ）は自由記述

1. ワープロ資格 2. 表計算ソフト資格 3. アドミニストレータ 4. 資格なし
5. その他の資格（ ）

Q 5. 情報の資格は必要

1. 資格取得は必要 2. 必要だと思うが取得しない 3. 専門外なので取得の必要なし

Q 6. 主に使用している機器（ ）は自由記述

1. 共有デスクトップパソコン 2. 個人用デスクトップパソコン 3. 共有ノートパソコン
4. 個人用ノートパソコン 5. タブレット 6. ゲーム機
7. スマートフォン 8. 携帯電話（ガラケー） 9. その他（ ）

Q 7. 主に使用している機器は使いこなしていると思うか？

1. 活用できる 2. 教えてもらえば使える 3. あまり使えない 4. 使えない

Q 8. 入力する際、どの方法が得意で利用していますか？

1. キーボード入力 2. ボタン打刻（例「お」と入力する際「あ」のボタンを5回打つ）
3. 指をスライドさせるスライド入力 4. 音声入力 5. その他（ ）

Q 9. インターネットを使用する際は、どの機器を使用することが多いですか？

1. デスクトップパソコン 2. ノートパソコン 3. タブレット 4. 携帯電話（ガラケー）
5. スマートフォン 6. ゲーム機 7. その他（ ）

Q 10. ネット利用の支払いについて

1. 自分で支払っている 2. 保護者が支払っている 3. その他

Q 10-1. (Q 10) で 2. 保護者と回答した人はその月の個人利用金額を知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

Q 10-2. (Q 10-1) で 1. 利用金額を知っていると回答した人はおおよその月額使用料は？

月平均（ ）円

Q 11. ネットを利用する上でセキュリティを利用していますか？

1. 利用している 2. 利用していない 3. 知らない

Q 11-1. 利用している人はどんなセキュリティを利用していますか？（ ）は自由記述

セキュリティ種類（ ）

Q 12. スпам（迷惑メール）の頻度と種類

1. 多い 2. 少ない

Q 12. で 1. 多いと回答した人は

Q 12-1. 週何通ほど迷惑メールが届きますか？ 平均（ ）通

Q 12-2. どういった種類の迷惑メールですか？（複数回答可）

1. 商品販売 2. アダルト系 3. 個人からのなりすましメール
4. その他（ ）

スマートフォンについて

Q 13. 自分はスマホ中毒（依存症）だと思うか？

1. 思う 2. 思わない

Q 14. スマートフォンで下記の使い方をしたことがありますか？（複数回答可）

1. 歩きスマホ 2. 運転スマホ 3. トイレスマホ 4. お風呂スマホ
5. スマホながら勉強 6. 食事スマホ 7. 会話スマホ 8. 授業スマホ
9. その他（ ）

Q 15. スマホで睡眠時間が減少しましたか？

1. 減少した 2. 減少なし

SNS について

Q 16. どの時期に SNS を始めましたか？

1. 中学生の時 2. 高校生の時 3. 大学生に入ってから 4. 利用していない

Q 17. SNS を始めたきっかけは？

1. 友人から勧められて 2. 家族から勧められて 3. 自発的に
4. その他（ ）

Q 18. 最初に始めた SNS は？（ ）は自由記述

1. LINE 2. Facebook 3. Twitter 4. mixi 5. GREE
6. Ameba 7. mobage 8. その他（ ） 9. 利用していない

Q 19. 個人でネットを活用している (SNS利用)

1. 自分の情報を掲載している
2. 情報を共有している
3. 個人掲載はしていないが、他の人の情報を読む
4. 使用していない

Q 20. SNSにおける個人情報登録について

1. 実名登録
2. 仮名登録 (ハンドル名)
3. 実年齢の登録
4. 仮想年齢登録
5. 実性別登録
6. 仮想性別の登録
7. 実職業登録
8. 仮想職業登録
9. 個人情報の登録はしていない

Q 21. SNSはどの型が良いか?

1. クローズド型 (会員制)
2. オープン型 (登録制)
3. オープン型 (招待制)
4. オープン型 (紹介制)
5. その他 ()
6. わからない

Q 22. SNSのどの機能を主に利用していますか? (複数回答可)

1. ブログ
2. ウェブ日記
3. 足跡機能
4. コミュニティトピック (ネット掲示板)
5. オークションへの参加
6. その他 ()
7. 利用していない

Q 23. 現在どのようなSNSを利用しているか? ()は自由記述

1. LINE
2. Facebook
3. Twitter
4. mixi
5. GREE
6. Ameba
7. mobage
8. その他 ()
9. 利用していない

Q 23-1. 利用しているSNSのどこがいいからですか? ()は自由記述

1. 無料
2. 会員数
3. ゲーム
4. 紹介
5. 援助交際
6. 友人
7. 自由記述 ()

Q 24. 一日どのくらいの時間利用していますか? (スマートフォン・SNSを含む)

1. 平均 () 時間
2. 利用しない

Q 25. 一日どの時間帯で一番利用していますか? (スマートフォン・SNSを含む)

1. 0:00~9:00
2. 9:00~12:00
3. 12:00~13:00
4. 13:00~17:00
5. 17:00~21:00
6. 21:00~0:00
7. ほとんど利用しない
8. 利用しない

Q 26. 使用について周りから注意されたことがある。()は自由記述

1. 使用時間帯について
2. 使用時間について
3. 使用していた場所について
4. その他の場所 ()
5. ない

Q 27. SNSを利用してトラブルが発生したことがありますか?

1. ある
2. ない

Q 27-1. (Q 27)で、1. あると回答した人はどのようなトラブルでしたか? ()は自由記載

1. 書き込みによる友人関係
2. 個人情報漏れ
3. 金銭関係
4. 写真共有によるトラブル
5. 映像によるトラブル
6. なりすまし被害
7. その他 ()

Q 28. SNSの理解度

1. 十分理解している
2. 理解している
3. 不明な点もあるが利用している
4. 不明なところが多い

Q 29. SNS上でのトラブル(事件)を知っていますか?

1. 知っている
2. 知らない

Q 30. SNSの利用はトラブルが発生すると感じているか?

1. 感じていない
2. 感じている

意識調査

Q 31. 友人の友人は話を聞いていれば知らない人でも友人だと思う

1. 思う
2. 思わない

Q 32. SNSを使って何をしたいか ()は自由記述

1. 情報を得ること
2. 友人を作ること
3. 私を知ってほしい
4. 周りの人とのコミュニケーション
5. その他 ()

Q 33. SNSで知り合った友人はいますか?

1. いる
2. いない

(Q. 33)で、1. いると回答した人は、直接あったことがありますか?

1. ある
2. ない

Q 34. SNSを利用するにあたってどう思っているか? (複数回答可)

1. SNSはプライベートな使い方ができる
2. SNSは他人を批判することもできる
3. SNSで自分の行いを懺悔することができる
4. SNSでの発言は取り消すことができる
5. SNS上での情報はいずれ流出すると考える
6. SNSでの匿名性は、いずれ破られると考える
7. SNS利用者には、善人のふりをした悪人もいると考えられる
8. SNSでの不用意な発言は、激しい批判にさらされることも覚悟しておく必要がある

Q 35. SNSを利用する上で注意している点? (複数回答可)

1. 実名登録をしない
2. パスワード管理
3. 管理がしっかりしているものを利用している
4. 参加者の顔がわかる人とは情報共有していない
5. 情報公開範囲が制限できるものを利用している
6. 個人情報登録には注意している
7. その他 ()

Q 36. SNSを利用する上で、他のユーザーの目は気になりますか?

1. 誰かに見られている
2. 管理者に見られている
3. 気にならない
4. その他

Q 37. これからもSNSは利用したいか?

1. 利用する
2. 必要な時だけ利用する
3. 利用しない

Q 38. あなたのこれからのネット生活で機器の必要性は? (複数回答可) ()は自由記述

1. スマートフォン
2. デスクトップパソコン
3. ノートパソコン
4. タブレット
5. 携帯電話
6. ゲーム機
7. その他 ()

Q 39. あなたは、どちらに興味がありますか?

1. 現実世界 (リアル)
2. 仮想世界 (バーチャル)

*アンケートのご協力ありがとうございました!